



構造物の中でも、デザイン性の高さで人を魅了する橋、長大に入社した太刀掛正俊さんも、橋の機能美に惹きつけられたひとり。だが、橋梁の知識が増えるほど「生活に密着した橋」の重要性を再確認。橋のプロフェッショナルを目指す太刀掛さんの仕事にける思い、今後の目標を伺った。

●この職業を選んだきっかけ

構造物に興味はありましたが、その中でも橋梁に心を奪われたのは「カッコ良さ」です。景観との一体感、デザイン性は構造物の花形だと思っていました。自分も華やかな仕事に就きたい。この思いで大学も土木工学を志望。橋梁の研究室では、新設から疲労や腐食といったメンテナンスまでを学びました。見栄えの良さに興味を抱いた世界でしたが、いつしか橋の一生に魅了されました。長大に入社した理由も、橋の新規・維持管理に高い技術と信頼があると感じたからです。

●職場の魅力や責務

橋は大小に関わらず、人とモノを運び、利用者の安全・安心に大きく貢献しています。その重要性は地方（離島架橋や山岳）では、より顕著に現れます。橋がなければ地域の交流はもとより、生活範囲が狭められる。橋梁事業に携わることで、自分が地域の役に立てていると実感できます。これが大きな魅力でもあり喜びです。また、橋は災害発生時にも活用が前提とされますので、その計画や維持管理の責務は重要だと感じています。

●仕事のこだわり、ポリシー

仕事で新設と維持管理を経験した後は、新規設計の場合でも、メンテナンスのことが頭に浮かぶようになりました。「この構造にすると、維持管理はどうなるか」「通常通りで問題ないのか」など、俯瞰して物事を考えられます。両方の知識があることで目的が明確になる。橋は完成してから何十年も利用されます。当たり前だからこそ、偏った設計にならないよう心がけています。

また、発注者や施工者と話しやすい環境を作ることにもこだわっています。信頼関係を築くには立場の垣根を越えて、「何を話しても大丈夫」と安心してもらうのが一番。今でも過去にお付き合いした方から、技術的な相

担い手シリーズ 27

新設～維持管理まで 橋の一生に携わる スペシャリストを目指す

太刀掛 正俊 入社14年目(技術士・道路橋点検士)
株式会社 長大



太刀掛 正俊 (たちかけ まさと)
福岡県宗像市出身。九州大学大学院
工学府 都市環境システム工学専攻
卒業。平成20年4月(株)長大入社

会社概要
(株)長大
〒810-0004 福岡市中央区渡辺通1-1-1サ
ンセルビル6F
TEL.092-737-8362 FAX.092-737-8371
<https://www.chodai.co.jp>

談を受ける時があります。そんなときは、自分のスキルが信頼されていることに喜びを感じます。

●仕事上で印象的なエピソード

心に残っていることは多々ありますが、耐震補強の仕事思い出します。耐震補強は、当初から使われていた素材を利用しなければなりません。設計や施工制約条件の多さや材料の劣化など、クリアすべき問題が多い。離島架橋の場合は、利便性もさることながら緊急輸送など、重要な役目がある。それらを考慮し設計することは本当に大変でしたが、このチャレンジは、自分を大きく成長させた実感しています。

●今後の目標

九州地区において橋のスペシャリストになることが目標です。新設、維持管理、マネジメントのオールラウンダーでもありながらスペシャリスト。幅広い視野を求められますが、技術者としてやりがいがあります。また、機会があれば、国内外の大型案件に携わって自分の可能性を試したいと考えます。

社会的使命のある仕事ですが、業界の活性化、若手技術者不足など、大きな転換期に入っています。地域のコンサルタントコミュニティで、リーダーシップをとり、この課題についても積極的に関わりたいと思います。